

.....編集後記.....

◆10-12月号を通常号とする今年の編集作業をほぼ終了した。来年の特集の企画がいくつか決まっているが、一般原稿は必ずしも潤沢ではない。読者諸氏からの積極的な投稿を歓迎する。

◆編集委員会に顧問を置く事になり、4名の方から就任のご快諾を頂いた。この顧問制度は、本誌の企画・編集に対し、より広い視野から助言頂く事を趣旨としている。ご就任頂く皆様にお礼申し上げますと共に、それぞれの分野からの忌憚のないご意見をお願いしたい。

◆イギリスに Geology Today という雑誌がある。創刊にあたっては、本誌がモデルになったという。編集委員をされている九州大学の岡田博有教授から伺った話である。こちらにも世界中に編集委員を置いて(!)、後続ライバル誌(?)に対抗せねばなるまい。

◆購読者を対象に、出版社側が今春送ったアンケートに、10%を超える回答が寄せられた。ご回答くださった皆様にこの場でお礼申し上げます。アンケート結果を見ると、過去1年間の企画のなかでは「天然記念物特集」が特に好評だった事が判る。職業・専門分野を問わず、ほとんどの方がこの特集を挙げておられるのである。これは、編集にたずさわった筆者にも予想以上の結果であった。アンケートにはまた、いろいろなご意見・ご批判も寄せられた。今後の企画・編集に生かしたい。

◆もっとも、上記の「天然記念物特集」が所内でもすべて好評だったという訳ではない。一部からは、「環境庁」のお手伝いをしたという酷評も受けた。通産省の所管ではないというのがその理由である

(ちなみに所管庁は文化庁である)。小役人がかかり易い視野狭窄症の故か。哀しいエピソードではある。

◆ここ2-3年表紙の写真でご協力頂いている日本写真作家協会の高野信幸氏は、筆者の知る限り、上記特集号の最も熱心な読者である。最近天然記念物を撮る旅を始められ、第1回の予察旅行で撮影した写真を本号の表紙に提供して下さい。高野氏に厚くお礼申し上げます。

◆先月号の編集後記に口絵に関する悩みが書かれていたが、4頁という決められたスペースを本文の構成と調和させて過不足なく満たす事は、実際には大変難しい。今月号も足りない分を自分(達)の稿で埋める羽目になった。「あちらを立てればこちらが立たず」……こういうジレンマには毎号悩まされる。

◆スペインの A. Arribas 教授が最近再来日された。IPB の錫鉱石標本を手土産に私の部屋を訪ねて来られ、既に送ってあった8月号を見て表紙や口絵の仕上がりのすばらしさに感動したと話してくれた。共著者としても編者としても、嬉しい一瞬であった。なお、表紙の写真は25年ほど前に撮影したとのこと。

◆最近大学の先生がたと業績について話す機会があった。いづこも研究業績について厳しい査定があって、成果をあげる事に腐心しておられるらしい。しかし、そもそも大学は学生を教育するために存在するはずである。教育業績についてはどう評価するのだろうか。

副委員長 佐藤興平 記

地質ニュース編集委員会

委員長:小玉喜三郎

顧問:林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

副委員長:佐藤興平

幹事:宮崎光旗・奥村公男・石井武政

委員:今井 登・岡村行信・杉原光彦・内田利弘・
花岡尚之・鈴木耐元・神谷雅晴・吉井守正

事務局:総務部業務課広報係(中島秀記・清水真寿美)
〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地 質 ニ ュ ー ス

第470号 1993年 10月号
定価 ¥ 770 千 実 費

1993年10月1日 発行

編 集

発 行人

発 行 所

工業技術院地質調査所
林 久 雄
株式会社 実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8
〒102
Tel. (03)3265-0951 (代表)
振替口座 東京 1-32466
麹町局私書箱第21号
小宮山印刷工業株式会社

印 刷

©1993 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ